



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	地球環境保守宣言 JAとうや湖 子供達の豊かな未来へ ”クリーン農業とうや湖”
Author(s)	遠藤, 靖彦
Description	専門家による情報提供
Relation	GMどうみん議会(Utelizing the RIRic Project: Genetically Modified Foods and the Community). 2011年10月22日(土)~23日(日). 北海道大学遠友学舎.
Issue Date	2011-10-22
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/47507
Type	conference presentation
File Information	GM_endo.pdf



地球環境保守宣言



J A と う や 湖

子供達の豊かな未来へ “クリーン農業とうや湖”



周辺環境

気 候:

南方の内浦湾(噴火湾)の影響を受け春先がやや不順ですが、晩秋は良好。盛夏時には、札幌などと類似した大陸型の様相となります。冬季の積雪は多い方ですが、その分春の気温は暖かく、道南に続く早出し産地です。

洞爺湖は日本の不凍湖の内の一つで、琵琶湖、支笏湖に次ぐ水量(82億 m^3)を湛えています。このために、適度な湿度の供給によりクリーン農業に適した気候条件となります。



JAとうや湖の特長② 主な農産物取扱いカレンダー

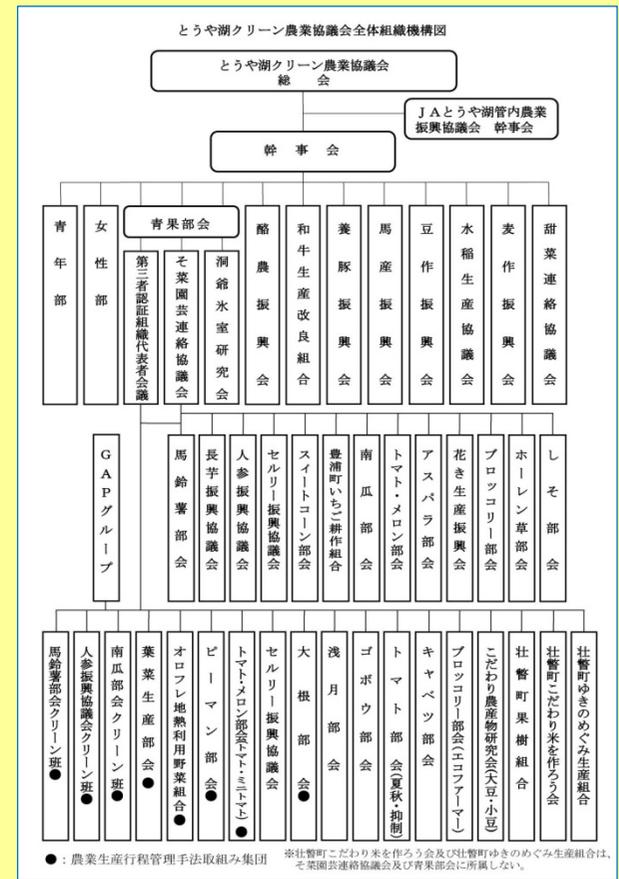
品目	2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		栽培区分	
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
1 馬鈴薯	※雪蔵馬鈴薯出荷(男爵・十勝こがね)						早出とうや出荷開始 ※9月より貯蔵とうや・男爵出荷開始																		十勝こがね出荷開始	YES!
2 長芋 (品種とうや湖3号)	春掘り開始						春掘り選別開始						秋掘り開始						秋掘り選別開始							
3 人参																									YES!	
4 大根																									YES!	
5 ごぼう	※秋掘り出荷終了						※春掘り出荷開始						※春掘り出荷終了						※秋掘り出荷開始						YES!	
6 セルリー	※促成出荷開始 ※露地出荷開始 ※抑制出荷開始																								YES!	
7 いちご	※とちおとめ通年出荷						※けんたろう出荷開始						※けんたろう出荷終了 ※四季なり出荷開始													
8 トマト	洞爺地区 3ha 社管地区 1.2ha																									
9 オロフレト トマト																									YES!	
10 ミニトマト	※150g/パック・3kg/バラ出荷																									
11 ピーマン	※ハウス出荷(さらら)						※露地出荷(京ひかり)						※露地終了						※ハウス終了						※秋野菜ポスター	YES!
12 スイートコーン																									YES!	
13 南瓜	※春野菜ポスター						※こふき・栗じまん出荷						※白南瓜出荷開始												YES!	
14 レタス類	※ハウス出荷						※露地出荷(レタス・サニー・リーフ・ロメイン)																		YES!	
15 キャベツ類																									YES!	
16 メロン																									YES!	
17 あさつき																									YES!	
18 しそ	※雪蔵ポスター																									
19 ブロccoli																									YES!	
20 Gアスパラ																									YES!	
21 ほうれん草																									YES!	
23 りんご	※雪蔵ポスター																		※つがる・レットゴールド・ふじ・他						YES!	

JAとうや湖の特長③ 環境保全型農業への取組み

■ 9年前の2002年度(平成14年)よりクリーン農業の取組みにより地域の農業を活性化させるべく、農協事業の柱として位置づけ、**クリーン農業の推進**を普及・実践しています。

■ 少量他品目産地として地域の特徴を活かしながら、**買い支えて下さる利用者から信頼される農産物を持続的に生産するため、安全・安心を基本とするクリーン農業**を生産者、農協、行政が三位一体となって、「**とうや湖クリーン農業協議会**」を設立し取組みを進めております。

■ **農業生産作業にリスク管理を導入し危害を軽減する事により、食品としての安全性の確立は基より農業従事者の労働安全の確保にも取り組んでおります。**
⇒ **農業生産行程管理(GAP(ギャップ))**



GLOBALG.A.P.
GGN:4050373208950
TUV Registration #:VC 70772310-0

JAとうや湖の特長④ 環境保全型農業への取り組み

- YES! clean認証やエコファーマーの集団化による「こだわり農産物の栽培」への取り組みとして、昨今、一般的な言葉で使用されている「**食の安全・安心、信頼のおける農産物**」の言葉が、北海道のYES! clean表示登録認証により安全が、また、農業生産工程管理(GAP)の国際基準ともいえるGLOBALGAP認証取得により取引先**双方の信頼**が、そして、このYES! cleanとGLOBALGAPの両方を地域単位で**取り組む**ことにより、産地ブランドとしての**安心**が消費者の方々に提供されると考えております。

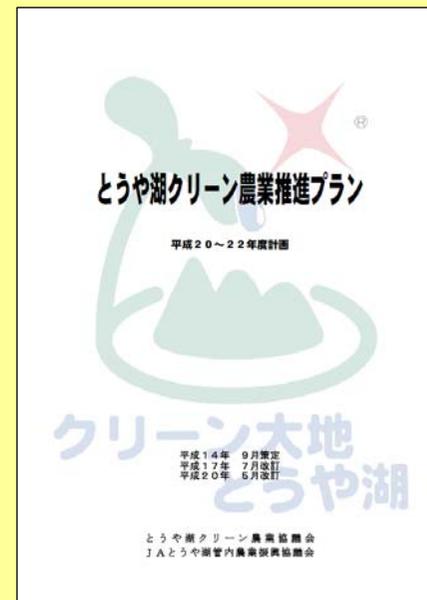


- 馬鈴薯などにおいては、雪の冷熱を利用し乾燥の抑制と低温順化させることを目的とした**雪蔵貯蔵施設**により品質保持と食味の向上と云う様に、**安全・安心・信頼のおけるおいしい農産物**の全ての言葉が、**第三者による認証や施設により裏付け**される取り組みを実践しており、消費者の皆様から支持するための「**こだわり農産物**」を提供しております。



クリーン農業推進への取組み

- JAとうや湖における環境保全型農業は「クリーン農業推進運動」として進めております。
- 土づくりによるクリーン農業の実践を手段として、出荷農産物に対する製品率の向上や収量の安定化により、農家経済を持続的に向上させるための重要な取組みとして位置づけております。
- 「洞爺湖」をはじめとする周辺環境生態系へ配慮し、過剰な肥料の投入や農薬散布による環境汚染をできるだけ最小限にとどめるためのクリーン農業推進でもあります。



クリーン農業推進への取組み

- 北海道の第三者認証ともいえる『YES!clean』の取得も平成14年度から積極的に取組み、道内トップクラスの登録品目数を数えます。

■ これまでに、

①北海道第三者認証

YES!clean登録(H22年度実績)

- ・17部会・18品目・延べ29作型
 - ・登録農家数 延べ282名 (全農家戸数の48%)
 - ・登録面積 延べ436 ha (耕地面積の31%)
- (畑作・飼料作物を除く)

②エコファーマー登録生産者:

114名(H23年1月末現在)

- ・目標面積 331 ha (エコファーマー生産集団化)

H23.2.1

平成23年産  GLOBAL G.A.P.
登録番号 GGN: 4050373208950

 「湖」こだわり作物栽培基準集

GLOBAL GAP 認証取得 1 頁
 青果物販売カレンダー 4 頁
 クリーン農業の進捗状況及び計画 5 頁
 商標登録一覧 78 頁

作物名	生産集団名	第三者認証基準 等	頁
水稲 (そのみのり)	社管町こだわり米を作ろう会	YES!clean	7
りんご	社管町果樹組合	YES!clean	10
ばいれいしょ	JAとうや湖馬鈴薯部会クリーン班	YES!clean、雪蔵物語	13
にんじん	JAとうや湖人参振興協議会クリーン班	YES!clean	16
レタス	JAとうや湖葉菜生産部会	YES!clean	18
かぼちや	JAとうや湖南瓜部会クリーン班	YES!clean(特別栽培農産物)	22
オロフレトマト	社管町オロフレ地熱利用野菜組合	YES!clean	25
ピーマン	JAとうや湖ピーマン生産部会	YES!clean(特別栽培農産物)、エコファーマー	29
トマト	JAとうや湖トマト・メロン部会	YES!clean	33
ミニトマト		YES!clean(特別栽培農産物)	38
セルリー	JAとうや湖セルリー振興協議会	YES!clean	42
だいこん	JAとうや湖大根部会	YES!clean	44
大豆	JAとうや湖こだわり農産物研究会	YES!clean(特別栽培農産物)、エコファーマー	48
あさつき	JAとうや湖浅月部会	YES!clean	51
ごぼう	JAとうや湖ゴボウ部会	YES!clean	53
水稲 (胚芽米)	社管町ゆきのめくみ生産組合	YES!clean	56
トマト	JAとうや湖トマト部会	YES!clean	58
キャベツ	JAとうや湖キャベツ部会	YES!clean	63
ブロッコリー	JAとうや湖ブロッコリー部会	エコファーマー	66
小豆	JAとうや湖こだわり農産物研究会	クリーン100(ホクレン) (特別栽培農産物)	69
ほうれんそう	JAとうや湖ホーレン草部会	エコファーマー	72
スイートコーン	JAとうや湖スイートコーン部会	エコファーマー	75

とうや湖クリーン農業協議会
とうや湖農業協同組合

農業の状況

- 後継者不足と農業者の高齢化による農家戸数の減少
但し、農業に対する魅力や、昨今の経済状況による就職難などにより、農業後継者のUターン就農が増加傾向にあります。
- 販売コストについて、北海道は食糧自給率が約200%と云うことであり、当地においても道外出荷が多く、農産物の輸送コストの負担割合は大きくなります。
- 耕作面積が広く、一戸当りの農業従事者も少ないため、作物専用の農業機械に頼らなければならないことから機械代金の支払が経営収支を圧迫している事が多い。
- 北海道の気候上、露地での栽培は農地が4ヶ月間雪に覆われる。
＝ 北海道はクリーンな環境であるとも云える。

遺伝子組換え

- 遺伝子組換え作物の栽培については、公に生産部会との栽培議論をした経過は有りません。農協という組織は組合員の農家経済を安定的に向上し、持続的に農畜産物が再生産可能になるための事業を行うことを目的とする組織です。
- 遺伝子組換え作物の栽培については、YES! clean栽培管理システムがありますが、栽培基準の要件に、
 - ①化学農薬や化学肥料の使用を最小限にとどめること。
 - ②また、馬鈴薯の茎葉枯凋剤は使用しないことと同様に消費者の理解が得られないという理由で、
 - ③栽培に使用する種苗は「遺伝子組換え由来の種苗を使用しないこと」と定義されている以上、YES! cleanを地域の取組みとして推進している事から、当地域においては遺伝子組換え作物は栽培しないと思います。
- 洞爺湖地域には少数ですが、有機農産物の日本農林規格(有機JAS)に取組まれている農家がいる。
 - 有機JAS ・苗等又は種菌は、組換えDNA技術を用いて生産されたものでない
 - ・ほ場における肥培管理と有害動植物の防除についても同様

遺伝子組換え ①北海道でのGM大豆栽培

- 北海道でGMダイズが栽培されていたことがあったことについて：
JAとうや湖としては、2002年からクリーン農業の取組みを推進し、2004年に道内で GMダイズが栽培されていたことがあったと知り、2005年にはYES! clean 取組み産地として「北海道をGM汚染からまもる」全国実行委員会の趣旨に賛同し、とうや湖農協として賛同金の支出と講演会に参加したことがあります。
- 私が考える、遺伝子組換えに作物における懸念材料
 - ①消費者の不安による買い控え、
 - ②風評被害による販売不振、
 - ③花粉汚染などによる他作物や自家採種への影響、
 - ④これにより農薬の効かない雑草の出現、
 - ⑤土壌微生物や有用昆虫など環境への影響、
 - ⑥種子の価格が高くなったり、特定の農薬の使用による生産経費割合の増加。

また、この度の福島原発事故による放射能拡散について同様、
組換え遺伝子が自然界に拡散した場合は人間の回集は困難である。

遺伝子組換え ②農産物の販売

- 重要なことは消費される方に対し、どの様に遺伝子組換え作物の良し悪しを理解し判断して頂くかが問題です。
- 農家の販売に対する立場は非常に弱い事が上げられます。
- 農産物価格は市況の影響を受け、いくら生産者が努力して品質の高い農産物を育てても市場の入荷量が多くなれば、次年度の再生産に必要な価格を割り込んでしまい圃場廃棄しなければならないことがあります。
- それを回避する方策として、JAとうや湖の農産物販売は市場価格に影響の少ない、値決めされた**こだわり農産物の契約販売**に力を入れています。

遺伝子組換え ③風評被害

- また、最も恐ろしいのは風評被害であること
- 風評被害は正しい情報を分かり易く整理し迅速に伝えないことによって起きる、というように考えられます。具体的な理由としては情報が不完全な場合に消費者の皆様の自己防衛機能が働き、自分の身の安全を守ろうとすると余計に不安になって慎重な行動を取るようになるからです。
- 消費者の皆様は情報に敏感で、例えば洞爺湖町で何か食品に対する問題が起こった場合は、まず「とうや」の名前が入っている物の買い控えが起こり、その地域から出荷される全ての物が売れなくなるという風評被害の現実があります。
- そのために、風評被害を軽減するには「正確な情報を分かり易い内容で迅速に提供する」必要があると思います。
 - JAとうや湖では、
 - ⇒ 農業生産行程管理(GAP)の取組みが有効
 - ①トレーサビリティ(栽培情報公開)
 - ②危害管理(各種分析値の公開(水質・残留農薬・放射能 等))など

遺伝子組換え ④情報提供

- 大切なのは、如何に消費者の皆様に安心して頂ける為の判断材料となる情報やデータを店頭POPやインターネットのホームページなどにより分かり易く提供できるかが重要なポイントとなります。
- 食品の選択には、
 - ①判断するための情報提供、
 - ②産地のイメージ、
 - ③知ろうとすること(TV、インターネットや口コミは情報が偏り鵜呑みにすると危険な場合がある、必要な情報は自分で調べて理解して判断する事が最良)が上げられます。
- 私も、本日の会議に出席するため遺伝子組換えに対する情報を色々調べましたが、発信源の意志(賛成・反対)により有利な参考情報を選択し、誘導するように発信されていました。

遺伝子組換え まとめ

最後に

- 私の個人的考えは、遺伝子組換え作物については、周辺地域の生産者の理解、また、消費者の皆様が理解を深めて頂き、概ねの方が理解され遺伝子組換え作物の消費についても賛同され、且つ、食品購入時に消費者が組換え・非組換えが選択できるような表示が整備されれば、栽培は可能なのではないかと私は思います。
- しかし、北海道における農業生産についての食料自給率が200%近くあり、現在は遺伝子組換え作物の屋外栽培実態がないことから、これ以上、消費者の方々に食品に対する不安材料を与えても意味がないため、現状においてGM作物を一般栽培するメリットは低いと思います。
- 逆に非遺伝子組換え産地として宣伝し、遺伝子組換え食品の適正表示を働きかけ、GM農作物が多用されている加工食品原料にも目を向け拡大し、情報選択に対する付加価値としての安心を適正価格で提供できれば、北海道産農産物として輸入食品の遺伝子組換え農産物に対抗できると思います。

ご静聴 有難う御座いました。

JAとうや湖 ~ クリーン&雪蔵

■ 雪蔵物語 = 安全・安心 + 正直・食味

JAとうや湖は、**クリーン(安全・安心)**な農産物を生産から加工・流通、そして販売に至るまでの過程を、**明確かつ明瞭(正直)**に**食味(雪蔵)**にこだわって消費者へお届けすること**(物語)**をコンセプトに活動します。



※「雪蔵物語」は商標登録第 5199903～5号で登録されています。